

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームビバ美園 1棟(てんとうむし)	評価実施年月日	平成20年5月20日
評価実施構成員氏名	永澤 ・ 織田 ・ 加藤 ・ 原田 ・ 山田 ・ 西山 ・ 田中 ・ 渡辺 ・ 佐々木 ・ 河岸		
記録者氏名	河岸	記録年月日	平成20年6月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の一人として、地域の中に出かけホームの存在、利用者を知ってもらうようにしている。		町内会、市等で行われている行事に積極的に参加して、交流を深めていきたい、地域の方々が気軽にホームを訪ねてくれるような関係性を作っていきたい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	壁や、職員の休憩室等に理念が張り出されており、いつでも読めるようになっている。		新しいスタッフが入ってきた時に「理念」について話をして共通の認識を持つ。職員が常に理念を頭に入れケアに取り組み、ミーティングや申し送り確認し合うようにする。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族には、入居時説明し協力をお願いしている。町内会の役員の方には、たよりを発したり、運営推進会議への参加をお願いしている。ホーム内の目のつきやすい壁などに、理念を掲示したり、パンフレットにも明記している。		町内会(地域)には今後も働きかけて行く。又、参加できる行事には今まで通り参加していく。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会に加入し行事などには積極的に参加している。自転車のパンク修理を頼んだり、回覧板を渡すときは、訪問し挨拶を交わすようにしている。散歩や買い物に出かけた時にも、気軽に挨拶をするよう心がけている。		災害時や行事へのボランティアなど、人の手が必要な事もあり、近隣との関わりをもっと密にするためにふれ合う機会を多くする。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会への行事案内が来たときは、利用者の体調を考慮しながら、出来るだけ参加し交流を深めている。		近くの小学校、児童館などとも交流を持ちたいと考えている。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の研修会に参加している。		地域の中へ、どう還元していくのか、地域が何を求めているのかを知る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員全員が自己評価を行い、ケアなどの実践を振り返り、サービスと質の向上に努めている。	中途採用のスタッフもいるのでこれを機に自己評価や外部評価の意義を再確認する。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議にて報告している。	町内会の参加を図る。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	ホームの行事(食事会)に参加していただいたり、月例や報告所の提出などの機会に話している。	地域の連携を深めるために市から町内会に働きかけていただき、ホームの実態や考え方を知ってもらうように努める。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	北海道社会福祉協議会の支援サービスを利用している。	今後は成年後見人制度の利用も考えられるので、準備していく。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	「拘束廃止」の研修会参加や虐待防止マニュアルの活用であくまで「生命」を優先順位として「尊厳」を保つよう努めている。	研修会等に参加し理解を深める。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	見学时、入居契約時に重要事項説明書に下書き説明し理解や納得を図るよう努めている。	入居希望で見学される方にも説明を行い、不安や疑問などに答えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常生活のなかでの1人1人の表情や状態の変化について、申し送り時、カンファレンス、ミーティングなどにおいて話し合い、対応している。</p>		<p>日誌の記録においてサービス提供中の言動、状態、表情を記入するよう努め原因や対応を検討し今後につなげていく。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>家族が面会に来られたときには日誌を見てもらい状況を伝えている。定期受診、風邪などの急変時の受診時には、速やかに電話にて報告している。(ファックスを使用するときもある)。</p>		<p>来訪されることの少ない家族には写真やハガキを送ったりしている。今後は、日常を伝える便りを定期的に出したいと考えている。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時やケアプラン説明時に家族より意見を頂いている。改善が必要な場合は速やかに改善し評価を頂いている。</p>		<p>家族と話し意見を聞いていく。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月ではないが年に数回、「今思っていることや不満に感じている事」を聞くようにしている。全員が発言するには至っていないが機会は設けた。</p>		<p>出来る限り機会を作り、日頃思っている意見や要望を聞くようにして行きたい。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>日常生活の状態の中で状況に対応できるように、勤務時間を変更したりして柔軟に対応している。</p>		<p>今後も状況に合わせた対応をしていく。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員を固定して馴染みの職員によるケアを行うようにしている。新しい職員が入った場合は利用者で紹介し、関係を築いてからケアを行っている。</p>		<p>職員が変わったり、新しい職員が入ったりした場合は、利用者の対応や説明を充分行っている。又、ユニットに合った人材であるかも検討している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所外で開催される研修に出来るだけ多くの職員が参加できるようにしている。実践の中で、トレーニングを行っている。</p>	<p>全職員に研修内容の報告をし、情報を共有できるようにしていく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域でのネットワークの中で研修や交流を持っている。</p>	<p>他のグループホームの見学や研修を行い、更にサービスの質を向上させていく。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休憩室を設け勤務時間中でも、気分転換する場所が確保されている。日常や面談時に短時間ではあるが、個々の悩みや相談事を聞くようにしている。</p>	<p>定期的に親睦の場を作り、気分転換を図れるようにしていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個別面談を行い、職員個々の思いを聞く。</p>	<p>職員がやる気の起こるような環境を作り、外部の研修や資格取得に向けた支援を行なっている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人に会い、話をする事に努めている。</p>	<p>本人のことをより理解するため自宅でお話を聞くようにしたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談などで話を聞き家族が求めている事、困っている事に対応出来るかどうかスタッフと考える。</p>	<p>自宅での様子等を伺ったり、状況を見ながら話を聞きより深く理解していただけるようにする。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の何が困っているのかを見極め、相談に乗っている。本人や家族の思いを理解し。改善に向けた支援を考えている。		家族の話をよく聞き相談に乗る。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学や昼食を共にするなど、ホームの雰囲気を感じ取ってもらう。		ホームの雰囲気に馴染めるよう、昼食を共にしてもらうよう家族に働きかける。又、職員が訪問するなど、少しでも馴染みの関係になれるようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者と職員と一緒に過ごし、昔ながらの色々な話を聞きそれを元に、遊びや、作業を行っている。		利用者は人生の先輩であるという意識を職員が共有する。利用者に教えてもらいながら行うという場面を多くもてるように心掛ける。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の様子や思いを細かく伝えることでお互いのおもいが通じ協力関係を築けることが増えてきた。		本人と家族、職員のコミュニケーションの場を増やしていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ホームの行事には、家族に呼びかけ参加していただき、一緒に過ごしていただいている。		手紙をご本人に書いて頂いたり、電話で話していただく、写真を送るなどして、本人の思いや様子を伝えていく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から馴染みの美容室や病院を利用している。		昔から馴染みのスーパーに言ったり、知人、友人に手紙や電話などして馴染みの関係が途切れないようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性を把握した上で、役割などを持っていただき、関係がスムーズに行くように努めている。毎日のお茶や食事の時間に職員も一緒に会話をすることで、過ごしている。		関係が上手くいかない利用者同士においては個別に話を聞くなどして、職員が調整役になっている。日々の心身の状態、感情で変化するので、観察、見守りをしている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	行事への誘いや、普段気軽に来訪できる環境にしている。		サービス利用が終了しても、関わりを必要とする利用者や家族には行事の誘いや、こちらからも訪ねて行ったりしたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での様子、会話の中から本人の思いや、希望していることの把握に努めている。		意思疎通が困難な利用者は、家族から情報を得るようにする。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所後、家族から本人の生活歴を頂き参考にしたり、本人との会話の中から把握するよう努めている。		家族が本人の暮らしぶりをあまり知らないようであれば、親類や関係者などから情報を伝えてもらうよう心掛ける。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、そこから起こりうる出来事に対応できるようにしている。		出来ること、出来ないことを知り、1日の過ごし方の中に上手く取り入れて、その人の全体像を把握している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族、関係者から思いや意見を聞き、職員全体でモニタリング、カンファレンスを行い介護計画を作成している。		日常生活の様子から、本人を交えて介護計画を立てる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	設定された期間と共に、変化に応じ検討や見直しを行っている。		安定している利用者の場合も、月に1回程度は、ケアの中での気づき、変化の兆しを確認しあい、実情に即した新たな計画を立てる。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルを作り、身体的状況や日常生活の様子を細かに記入し、全職員がいつでも確認できるようにしている。個別ファイルのほかに、業務や全体の流れを記録したファイルがあり、個人ファイルと併用して確認し情報を共有している。		介護計画にそって実践されたことに対し、それがどうなったかをその都度細かく記録し、介護計画の見直しにつなげていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の状況により、通院や送迎など必要となる支援は、柔軟に対応している。		今後、ショートスティやデイサービスを取り入れた、多機能性を目指して行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議の中に消防訓練を取り入れ、訓練後に消防署員の方に会議に参加してもらいホームの実状を知っていただいている。行事の際にボランティアをお願いしている。		近隣の教育施設(学校、児童館)などに働きかけていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の体調や状況を見て、訪問理美容サービスを利用している。		利用者の状況を見て、行事や外出時にボランティアの支援を利用できるようにしていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	成年後見人制度が必要と思われる利用者がいるため地域包括支援センターと協力して利用できるよう支援している。		地域包括支援センターの職員の方にも、運営推進会議に参加して頂くように呼び掛けていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や、家族が希望する病院に通院されている。状況に応じ職員が行くこともある。提携医及び利用者個人のかかりつけ医と相談しながら支援を行なっている。</p>		<p>往診の場合も、家族に日時を伝え、同席していただき、利用者の状態を確認していただけるように取り組んで行くよう考えている。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>近隣に認知症専門医がいないため、現在利用している精神科の医師、ソーシャルワーカーと相談しあいながら指示、助言をもらっている。</p>		<p>受診時だけでなく、状況に変化があるときは、相談、助言を頂いている。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>資格を有する職員及び訪問看護ステーションの看護職員は確保されていないが、提携医療機関との連携はとれている。</p>		<p>看護職の確保、または外部からの看護師の協力を得られる体制にして行きたい。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には頻繁に職員が見舞いに行くようにし、早期退院に結びつくように、病院側と情報交換を行っている。</p>		<p>今後も同じように行っていく。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合、終末期のあり方については、事業所が対応できる最大限のケアについては家族に話しをしている。</p>		<p>本人、家族の意向を聞き、係りつけ医との話し合いをする事で方針を共有していく。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>具体的な話し合いや取り組みは、まだされていない。</p>		<p>終末期の方を受け入れる体制がまだ整っていないが、今後は具体的な話し合いを持ち、医療機関との連携体制を整え準備していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>新しい住まいに移り住むことになっても、環境や暮らしの変化によるダメージを最小限に抑えるため、情報交換を行いこれまでの生活、支援の内容が継続されていくように努めている。</p>		<p>別の場所へ移り住むことになっても、馴染みの職員が訪問するなどして、変化によるダメージを最小限に出来るよう努めていく。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーに配慮したケアを心掛けており、特に声掛けや対応においては、利用者同士の関係性も配慮し、周りに気づかれぬような自然なケアを行っている。</p>		<p>ミーティングの際に、日々の関わり方、言葉使いなどを再確認し、より良いケアに努めていく。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の理解力に配慮しながら、自己決定を引き出すようにしている。意思表示の困難な方に対しては、行動や表情から、どうしたいのかを読み取ったり、ジェスチャーを使うなどして伝えている。</p>		<p>コミュニケーションを多く取り、複数の選択肢を用意し、出来る限り自己決定できる場面を作っていく。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活のペースを把握し、本人の気持ちを尊重し出来る限り個々に合わせて支援している。</p>		<p>一人ひとりのペースを守るため、職員同士が工夫して支援している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>着替えは、本人の意思で決めてもらう。見守りや支援の必要な方は一緒に行っている。理容・美容室は、馴染みの店を利用したりしている。</p>		<p>行事や外出時など、日ごろから化粧や、おしゃれを楽しめるように支援をしていきたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立作成時や食材の買い物のときに、何が食べたいかを、利用者と相談して行っている。利用者それぞれが、できる事を分担し準備から片付けまでを、一緒に出来るよう支援している。</p>		<p>季節や行事に合わせた献立を取り入れているが、マンネリ化しないように心掛けていく。利用者と一緒に、手作りで出来るおかずやおやつを増やして行くよう努める。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好むおやつなどを、家族に協力を頂き、面会時に持ってきていただいている。		飲み物、おやつは希望するものを提供するようにしている。飲み物については、いつでも飲めるように用意してある。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の動きや様子を見ながらトイレ誘導を行っている。紙パンツ、尿取りパットは常時使用するのではなく、体調や状況を見て使用している。排尿・排便のチェック表を確認しながら、リズムを捕らえ、水分や食事内容も考えている。		排便状況の思わしくない利用者に関しては、担当医と相談しながら、服薬で調整しながらの支援を行っている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望で入浴して頂くようにしているが、自己決定に出来ない方はスタッフが状況を見て入浴していただいている。拒否の強い方に関しては、声かけや、対応、タイミングを見ながら個人個人に合わせた支援を行なっている。		夜間(就寝前)の入浴ができるように、時間帯の工夫を考え実現できるように努めていく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣に合わせ、昼寝等は自由にして頂いている。夜間眠れないときには温かい飲み物を提供したり、寄り添って会話をするなど気持ちが落ち着くような支援をしている。		夕方から就寝にかけて穏やかで安心した時間が過ごせる様な過ごし方の工夫をするよう考えていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者一人ひとりの出来そうな仕事を役割として行なってもらい、その人にとって生きがいとなるような支援をしている。		食事作り、畑仕事などその役割が、本人が生きがいとなるような支援を利用者と相談しながら行なっている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を使う事が出来なくても自分の手元にお金があるという安心感が持てることから、本人が財布を持ち、必要なときには本人の了解のもと職員がお金の出し入れを行なっている。		事業所がお金を管理している利用者でも、買い物などの支払いは自分で払っていけるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望に応じて、散歩やドライブに出かけている。買い物は、ほぼ毎日近くのスーパーへ買出しに行っている。歩行の困難な方も、車椅子や車を使い外出している。		お弁当を持って戸外へ出掛ける機会を作っていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	バスを利用したバスツアーを計画し普段より少し遠くに出かけている。家族にも案内を出し一緒に楽しめるように支援している。		家族とともに楽しめる外出を増やしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話をしたいという希望があるときは、自由に電話をして頂いている。年賀状などは書ける人には自筆で書いて頂き、困難な方は名前だけでも書いて頂き、文面は職員が代筆するなど支援している。		年賀状だけでなく、日常的に電話や手紙を出せるよう支援していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽にいつでも訪れることのできる雰囲気作りをし、職員がいつでも笑顔で対応するように心掛けている。		宿泊や、食事を一緒に取ることが気軽にできるようにしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。	一人ひとりの生き方や、言動を制限する事無くケアを行なっている。やむを得ず制限しなければならぬ場合は、全職員で話し合いケアの方法を考えている。		身体拘束について、更に理解を深めるための研修を行ない拘束は行わないという認識を全職員が持つようにする。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけずに自由に外に出られるようにしている。外へ出て行かれようとしても、止めることはせず、危険のないように、声かけ見守りをしている。		センサーを使用しているが、頼り切ることなく、利用者の状況を察知して職員同士が連携し、見守りを行なっている。 近隣にも理解を求め見守りや、連絡をしてもらうようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜ともに職員は、利用者を見守りしやすい位置で、様子を見ている。部屋で過ごされていることが多い利用者に対しては、プライバシーに配慮しながら様子を伺うようにしている。		夜間の見回りは、決まった時間以外にも、一人ひとりに合わせた時間の見回りを行なっている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全てを取り除くのではなく、利用者の状態に応じて保管、管理している。		利用者の状態を見ながら、保管、管理の方法をその都度検討しながら行っている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日常の様子から危険と予測される状況においては、すぐに対応できるように、予防策を検討している。ヒヤリハットや事故報告書から、今後の対応を速やかに検討し確認しあい、家族に報告している。		申し送り時に利用者一人ひとりの身体的、精神的状況を把握し、事故につながるような状態であるかもしれないということを想定し、注意している。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルを備えている。消防署員の協力を得て、救急手当などの講習を受けている。		起こりうる事故を想定し、緊急の場合でも全職員が対応できるように、再確認を行っていく。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防立会いの元、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議で協力を呼びかけ、近隣住民や利用者の家族、行政にも協力を求め参加してもらっている。		近隣住民には、緊急時に協力を得なければならないことがあるので、協力、要請のお願いを呼びかけていく。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人ひとりのケアに安心感を持っていただける様に、日々の状況を日誌に分かりやすく記録し、ケアや対応について納得してもらえるように心掛けている。又、訪問された際には、その時の状態によつての対応から起こりうる状況説明を行っている。		事業所の方針や、取り組みについて説明し、理解を得られるようにしていく。家族からの疑問や要望などについて、職員全員が同じ回答が出来るように努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>職員は、利用者それぞれの普段の状況を把握しており、少しの変化でも職員全体で把握し対応している。</p>	<p>少しの変化であっても、管理者に報告し指示を仰ぐと共に、申し送り、記録をして職員間で共有し、対応している。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の処方箋をすぐに確認できるように個人記録にファイルしている。体調に変化があれば、医療機関に相談し、指示を仰いでいる。家族にも状況を報告している。服用時には、きちんと服用出来たかを必ず確認する。</p>	<p>全職員が服薬の内容を把握できるように、申し送り、記録を徹底し、薬の重要性を理解するよう努める。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>毎日の排便状況をチェック表に記録し、状態を確認している。出来るだけ自然な排泄が行えるように、食事に工夫をしている(食物繊維の使用)。薬を服用している利用者は、医師と相談しながら排便の調整を行っている。</p>	<p>個人差があるため、食事やおやつ、飲み物など個人に合わせた支援が出来るよう努める。適度な運動も取り入れていくよう心掛ける。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>保健所から口腔ケアの講習を受けている。利用者の習慣を踏まえ本人の力に応じて見守り、介助を行っている。就寝前の義歯管理手入れは十分にされている。</p>	<p>口腔ケアの難しい利用者については、歯科医と相談して助言を頂いている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの1日の食事量、水分量をチェックし職員全員が把握している。栄養バランスの面では、1日を通してバランスの取れる量を考え献立を作成している。</p>	<p>献立を栄養士にチェックしてもらい、専門的なアドバイスを受ける。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>利用者は家族の同意を頂き、職員もインフルエンザ予防接種を受けるよう心掛けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルの使用している。食前にはウェットティッシュ(除菌)で手、指の消毒を行い、疥癬については、足浴を毎日行っている。</p>	<p>感染症発生状況の情報によりその都度、感染症予防についての内容、対応を確認、周知する。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は、毎日買い物し、出来るだけ買いためしないように心掛けている。冷蔵庫、冷凍庫の食材は、賞味期限の確認を頻繁に行い安全性に努めている。</p>		<p>調理を担当する職員は、必ず食材のチェックを行い、新鮮で安全な食材を使用している。生鮮類は当日仕入れるように心掛けている。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先に花を置いたり、センサーマットはカバーを掛け玄関マットのようにしている。下駄箱には綺麗なカーテンを取り付けるなどして、明るい雰囲気を作っている。</p>		<p>庭先でゆったりとお茶を飲んだり、話が出来るようにベンチやテーブルを置き周りにはプランターの花を置いている。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間や廊下の壁などに、季節や行事にちなんだ飾り付けがされている。テーブルクロス、暖簾などで家庭的な雰囲気作りをしている。トイレが分かりやすいように、表示している。</p>		<p>飾りつけは、利用者と一緒に作成、取り付けをしている。利用者の状態に合わせて、家具などの配置を考えその都度対応している。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下やベランダ付近にソファ、椅子を置き、いつでもくつろげるスペースを作っている。</p>		<p>共用空間の中でも一人で過ごせるようなスペースが作れるように考えていきたい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者の馴染みの家具や装飾、写真などを飾っている。</p>		<p>個人の個室を利用者本人が混乱しない程度に過ごしやすいように工夫しながら模様替えをしたり環境を整えたりしている。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気をこまめに行い消臭剤を使うなどして工夫している。温度調整は、利用者の様子を見ながら行っている。</p>		<p>利用者それぞれの部屋においても、心地よく過ごせるように、換気やおいに気を配っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの状態に応じて立ち上がりやすい肘掛け付きの椅子や固めのソファールにするなど配慮している。車椅子の利用者にも動きやすいように家具の配置の工夫をしている。</p>	<p>今後、重度化する事を考え、一人ひとりの部屋が過ごしやすい環境になるように考えていく必要がある。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>状態を把握し、その都度本人が出来ると思われる状況に環境を整えている。</p>	<p>どこまで解るのか、出来るのかを知り、利用者に解りやすいような工夫をしている。混乱や、失敗が生じた時はその都度対応している。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>畑づくりをしたり、洗濯物を干したり、又、庭にテラスを作ったことで、利用者が日常的に外で過ごせる機会が増えた。</p>	<p>車椅子や歩行の困難な利用者も、テラスへ出やすいように、ベランダとつなげて設置して気軽に外へ出られるようにした。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 今出来ることを少しでも多く経験していただけるよう支援して、たくさんの思い出を作っていきたいと思っています。職員と利用者との関係も日を増すごとに馴染みになり、会話や笑顔もどんどん増えています。同じ空間同じ時間を過ごしながら、もっと利用者の思いを感じ取ることができるよう、職員全員が、日々考え、気づき、話し合い、笑い声の絶えない暮らしを目指しています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 , 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームビバ美園 (2棟 ひなた)	評価実施年月日	平成20年5月20日
評価実施構成員氏名	尾崎 荒井 水上 谷内 桐木 小山 宮本		
記録者氏名	尾崎	記録年月日	平成20年6月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	今までに培ってきた地域社会との関係を大切にし、これからも地域と共存し、変わらない生活をしていくことを理念の柱とした。		お花見などの町内会行事への参加、資源ゴミの回収など出来る ところから参加し、当事業所の存在をアピールする
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる。	職員採用時に理念は伝えているが、スタッフ同士の理念についての話し合 いの機会が少ないため、意識づけが薄い。		ミーティング等の際に、理念が日々のケアに反映されているか話 し合い、確認していきたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続 けることを大切にしたい理念を、家族や地域 の人々に理解してもらえよう取り組んでい る。	ご家族には契約の際の説明時に、地域にはホームページを活用することで 理念を伝えられるよう取り組んでいる。		地域の行事参加の際や、運営推進会議などの際に事業所の実 践を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえ るような日常的なつきあいができるように努め ている。	町内の回覧板を回したり、買物や散歩で挨拶を交わすなど、近所の方たち と触れ合う機会が多い。		もっとホームに立ち寄る回数が増えるよう、便りなどで当ホーム への理解が深まるようにしていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に 参加し、地元の人々と交流することに努め ている。	地域の一員として、行事には積極的に参加して交流を深めている。		今後も町内会の行事には積極的に参加し、事業所と地域との関 係を深めていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り組 んでいる。	町内会の役員の方々に、当ホームが地域の方々の役に立つ事は無いが働 きかけているが、なかなか理解を得られず貢献するまでに至っていない。		地域の様々な会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めて いきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価は全職員で行なっている、又、外部評価の結果も報告、検討し、サービスの質の向上につながるよう、実践できるようにしている。</p>	<p>評価の意義やねらいについて伝え、全職員で取り組むよう努めている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議での意見はその場で話し合い、参加者それぞれの考えを尊重しながら助言やご意見を検討し、サービス向上に努めている。</p>	<p>会議の内容に改善策がある場合は、スタッフ全員で検討している。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>月次報告や運営推進会議録、介護保険更新などで訪問した際に、当事業所のケア方針を伝えている。</p>	<p>今後も関係を深められるよう、運営推進会議などに参加していただき、又、市主催の研修会などにも積極的に参加していきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>サービスを展開していく上で、制度を利用される方の入居も考えられるため、学ぶ機会を作りたい。</p>	<p>今後、スタッフ研修等で理解を深めていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>行政機関より配布されたマニュアルを職員全員で回覧把握し、虐待防止に努めている。</p>	<p>勉強会や研修に参加し、虐待に関する理解を深め、虐待の徹底防止を行なっていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に事業所の理念やケア方針、取り組み等を理解していただけるよう説明し、家族側の疑問や不安等についても話し合い、同意していただいている。</p>	<p>契約時には入居後の利用者の状況変化による対応、ご家族の面会、受診などのご協力についても説明を行なっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日頃より、行事、食事など利用者の意見を聞き実行したり、不満や苦情は聞かせていただくという姿勢で接し、「ご意見箱」も設置している。</p>		<p>外出先や料理の味付け等、利用者の意見があった場合はミーティングで話し合い、利用者本位になるよう心掛けている。今のところ、「ご意見箱」の意見はありません。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>定期的にホーム便りを発行し、ご家族の来訪時にはケース記録を見ていただき近況を伝えている。利用者の状況に変化が起きた際は早急に連絡している。</p>		<p>金銭管理については出納帳に記入し、利用料請求の際に利用者が使用したレシートを送付し、ご家族に確認して頂いている。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族の意見を来訪時に聞き、出された意見、要望等をミーティング等で話し合い、反映させている。また、「ご意見箱」も設置している。</p>		<p>ご家族からの意見を投入していただく場所も確保している。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の申し送りやミーティング等でスタッフの意見を聞き、運営に反映させている。</p>		<p>日頃からスタッフとのコミュニケーションを図るように心掛け、いろいろな意見が聞けるような環境作りをしている。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者のその人らしい自由な暮らしを出来るだけ支えられるように、必要な時間帯(入浴時や外出時など)にきちんとスタッフを配置できるよう勤務調整している。</p>		<p>利用者の状況に合わせて柔軟な対応が取れるような勤務体制にしている。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>スタッフを固定して利用者との信頼関係を結び、利用者が顔なじみのスタッフから安心したケアを受けられるよう、スタッフの移動等は必要最小限にしている。</p>		<p>新しいスタッフが来た際には利用者で紹介し、利用者が安心して受け入れが出来るよう、勤務上でも配慮している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>グループホーム協議会の研修や、他の事業所の学習会などに積極的に参加している。</p>	<p>新人研修や専門研修にできるだけ参加し、研修後の報告会もミーティングで行なっている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>認知症ケアネットワークを結んだ近隣の同業者との交流や、全国全道の協議会での研修会への参加など、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>他の事業所と交流する事で質の向上につながるよう、今後も研修会へ積極的に参加していく。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>疲労やストレスが溜まらない様、親睦の場を提供し気分転換の機会を作ったり、過密な勤務にならないような勤務調整も行なっている。</p>	<p>休憩所の確保や、スタッフの声をささいな事であっても日々聞き入れるように努めている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者がホーム(現場)へ来た際にはスタッフの勤務状況を把握するように努めており、また、スタッフのスキルアップのために課題等を与えている。</p>	<p>スタッフがやりがいや向上心を持って働ける環境作りや、資格取得のための支援等を行なっていきたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談時に本人の要望や不安などを相談しやすい雰囲気作りや、「傾聴」できるように心に余裕を持ち、本人の気持ちを受け止めるようにしている。</p>	<p>本人の要望や不安等を把握し、本人が安心して生活できる様な関係作りに努めていきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談時にご家族から本人とのこれまでの経緯や、家族としての思い、不安など小さな事でもじっくり聞き入れ、受け止めるようにしている。</p>	<p>家族の経過や困っていることを聞き、思いや状況を理解する事で、信頼関係の第一歩につなげていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人やご家族の思いをきちんと汲み取り、必要なサービスを提供できるように取り組んでいる。		状況によっては地域包括支援センター等とも連携し、可能な限りのサービスを提供していきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	最初に本人とご家族にホームを見学していただき、食事を共にするなど雰囲気や少し味わっていただいた上で、入居するかどうか決めていただいている。事情によりすぐ入居する場合であっても、本人がそれまで関わっていた関係者に来ていただき、本人の不安を少しでも解消できるように協力をいただいている。		今後も家族の協力をいただきながら、本人が安心してホームに馴染んでいけるよう工夫していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	普段の生活の中では利用者の方達から教えて頂く事も多く、利用者の方は人生の先輩であるという意識を全職員が持ち、接している。		利用者の話にはきちんと耳を傾け、その人の生活歴なども理解した上で本人の思いを受け止め、ケアにあたっている。また、食事作りなど利用者の方から教わりながら一緒に作業するように心掛けている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には本人の思いはもちろん、接しているスタッフの思いも伝え、家族と同じような思いで本人を支えている事を伝えている。		助ける人、助けられる人という関係ではなく、共に本人を支えていくという姿勢で協力していけるような自然な人間関係を築いていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人、家族両者の思いが結びつくような働き掛けを心掛け、行事など家族に参加していただくように呼びかけて、良い関係の継続に努めている。		本人、ご家族の状況を見極めながら、可能な限り一緒に時間を過ごせるよう、外出や外泊などの協力もお願いしている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から利用している馴染みの場所、生活習慣として続けている墓参りなど、その方が大切にしている馴染みの関係や習慣を尊重し、支援している。		今までの馴染みの関係が途切れないよう、配慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お茶や食事の時間は皆様に声を掛け居間にて共に過ごし、役割活動などは利用者同士の関係を見極めた上で数名ずつで行ない、それぞれの個性をうまく活かせるよう配慮している。		利用者同士の仲を十分に把握し、孤立しないような支援に努めている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他の事業所へ移られた方にも本人や家族からの相談に応じている。		他の事業所へ移られた後にも面会へ行ったり、行事に来ていただいたりと、可能な限り交流を続けていきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者とは日々コミュニケーションをとって行く中で、今何を思っているのか、何を望んでいるのかを把握するように努めている。また、顔の表情や仕草からも意思を推察するようにしている。		ご本人はもちろん、ご家族からも本人の情報を得て、希望や意向を確認している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご本人、ご家族と面談を行ない、今までどのような暮らしをしていたのかを聞き、利用者の全体像を把握するようにしている。		プライバシーに配慮し、ご本人がこれまでと同様に安心して暮らしていけるように、情報をスタッフ全員で共有する。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者それぞれの生活リズムをきちんと捉え、些細な変化でも記録し、その都度本人の現状を確認するようにしている。		本人の出来る事、出来ない事を小さなことでも発見できるよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日頃の関わり合いの中で、利用者の思いや意見を聞き、その上でスタッフ全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行なっている。		ご本人、ご家族で話し合い、意見、要望に基づいた介護計画の作成に心掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直し期間以前であっても、本人の状況に変化があった場合はスタッフ全員で話し合い、ご家族の要望も踏まえ検討し、新たに計画を作成している。		変化にて生じた本人の新たな思いも確認し、介護計画の見直しを行なっている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各利用者個別に暮らしの様子やその時の言動など記録し、全スタッフが把握できるようにしている。また、引き継ぎを行ない、情報の共有を図っている。		情報を共有した上で、更なるケアの工夫や介護計画の見直しなど、全スタッフで検討している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人やご家族の状況に応じ、通院などの支援を行なっているが、今後地域住民や利用者の要望に応じるために、ホームをどのように生かしていくか検討していかなければならない。		現在は実施していないが、将来的には近隣高齢者も利用できるような場所にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域で暮らしていけるよう、町内の民生委員、警察や消防機関と連携を取り支援している。		民生委員や警察等と意見交換する機会を設けたり、地域のボランティア等とも協力できるよう呼びかけていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は他のサービス事業所や市独自のサービス等を利用するまでには至っていないが、利用者の状況によって、通院時に介護タクシーを利用するなど支援している。		今後は本人の希望があれば事業所以外のサービスも受けられるよう、外部とのコンタクトを取っていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ホームと地域のかげ橋になるよう、現在のホームと地域の現状を伝え、理解していただいた。		引き続き、地域にホームの立場をなかなか理解していただけない現状を訴え、地域との調整を包括支援センターと共に行なっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医になっており、基本的には家族対応の受診となっているが、不可能なときは職員が代行するようにしている。利用契約時にその旨を説明し、同意をいただいている。		ご本人の状態によっては、それに応じた医療機関に受診できるようご家族と相談、確認している。又、受診時の通院介助の方法や、情報提供の合意もいただいている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医は近隣にいないが、些細な事でも相談ができ、助言をしてくれる医療機関がある。		今後もその医療機関とは信頼関係を築いていき、利用者の状況によっては専門医の受診も考えていきたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職の確保はできていないが、利用者の状態に変化があった場合はかかりつけ医に連絡し、適切な対応を仰げるような体制をとっている。		近隣の訪問看護ステーションを利用するなど看護職を確保し、利用者の急変にもすばやく対応できるように支援をしていきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は本人に関する必要な情報を医療機関に提供し、スムーズな退院ができるよう、家族も交えて細かく話し合いを行なっている。		医療機関、家族と連携を取りながら、本人のダメージを最小限に抑えられるよう、退院への支援を行なっていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期の方針について、早い段階でのご家族との具体的な話し合いは行なわれていないが、医療行為の度合いによってかかりつけ医(主治医)のアドバイスをいただきながら対応していきたい。		受診状況により、かかりつけ医のアドバイスの下ご家族と同居しながら、方針などを共有していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期の利用者について、かかりつけ医、ご家族、医療ソーシャルワーカー等同席にて出来る事、できない事を話し合い、最終的に医療行為が24時間必要との事で入院され、10日目に亡くなった事例もありました。		今後は重度化や終末期に備えて、ご家族の意向やホームとして出来る事、出来ない事を見極め常に情報交換しながら、ケア関係者での話し合いや、かかりつけ医との連携体制を整えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>関係者やご家族と十分に話し合いを行ない、住み替え時にはアセスメントや支援状況などの必要な情報提供を行なっている。</p>		<p>住居が変わっても本人の生活が変わらず継続できるよう、情報提供していく。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人の人間として尊重し、言葉掛けや対応にもプライバシーを損ねないよう気を付けている。個人記録などニシヤルで記入している。</p>		<p>人前での介護や誘導、声掛けは本人を傷つけることのないよう、さりげない対応をするように心掛けている。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>何か選択する場面では本人に決定をゆだね、意思表示が十分にできない方でも、表情や態度などから希望を把握するようにしている。</p>		<p>スタッフが本人の選択を誘導しないよう、声掛けの仕方にも配慮している。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>業務の時間で区切った過ごし方をするのではなく、本人の思いや状況に合わせ、それぞれのペースで生活できるように対応している。</p>		<p>買い物、散歩、ドライブなど、入居者のやりたい事がすぐできるよう、柔軟な対応を行なっている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみについては、毎日の髭剃り、髪を結ったり梳かすなど支援している。服装についても、本人の好むものを着てもらえる様に選んでいただいている。また、理容、美容も本人の希望を聞き、出掛けるようにしている。</p>		<p>本人の好みを把握しながら、おしゃれが出来るように支援していく。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の負担にならないよう、体調や状況を把握し、買い物、調理、盛り付け、片付けなどの声掛けを行ない、本人の意志や気持ちを尊重しながら一緒に行なっている。</p>		<p>利用者の希望や意見をメニューに取り入れ、手作りの物(コロッケや餃子など)と一緒に作ったり、バイキング方式で食事をするなど、趣向を凝らし、楽しい雰囲気作りを大切にしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の好みを把握し、おやつなど食べたい物を一緒に作り、楽しんでいる。		利用者の声を大切にし、次回への楽しみにつなげている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の日常の排泄状況を把握し、個々に応じた支援を行なっている。		利用者の気持ちに配慮し、さりげない声掛けや誘導を行なっている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の要望やその日の状況を見て、声掛けを行なっている。		週6回の入浴日を設け、季節に応じた入浴剤を使用するなど、気持ち良く入浴できるよう、支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の生活リズムや体調に合わせて休息を促し、休んでいただいている。		夜間なかなか眠れない入居者には、本人の話を聞いてあげたり、温かい飲み物を提供するなど、安心して眠れるように支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者それぞれの出来ること、出来ないこと、好きなこと等把握し、食事作り、買い物など楽しんで出来るように支援している。		個人の得意料理は最初から最後まで本人に作っていただいたり、気晴らしのために季節を感じさせるような場所へドライブへ行くなど、こまめに外へ出る事にも心掛けている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	それぞれの能力に応じてお金を所持、使用できるように、必要であればスタッフで所持金の残高を本人と確認するようにしている。		本人の希望に沿ってお金が使えるように、買い物などの支援をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の気分に応じて、散歩、買い物、ドライブなどに出掛けている。日々の食材の買い出しも利用者に声を掛け一緒に行かない、その都度感謝の言葉を伝えている。		利用者からの希望がある時はもちろんの事、それ以外でも天気の良い日などはこちらから声を掛け、外に出掛けられるように支援している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者の希望に応じて、行きたい所へ行けるよう、機会を作り支援している。		それぞれの利用者の行きたい場所などは常に聞き入れ、少人数で行ったり、全員で行ったりと状況に応じた支援をしている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が気兼ねなく話せるよう、電話は自室で使用していただいている。毎年賀状を用意し、利用者で相談して出すように支援している。		利用者から近況報告など気軽にできるよう、電話や手紙など促していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	決められた面会時間を設けず、いつでも気軽にゆっくりと本人と過ごしていただけるような雰囲気作りをしている。		面会者の希望により、面会時には自室で本人とお話ししたり、居間にて他の入居者も交えてお話ししたりしている。宿泊なども可能で、その際は食事と一緒に取っていただけるようにしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の生き方やこれまでの生活の継続をケア目標としているため、抑制をしないケアに取り組んでいる。		やむを得ない事情により、行動を制限する場合には、スタッフ全員で協議し、安易に行かない。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関に鍵はかけておらず、利用者が何も言わず外へ出て行った場合には後ろから見守りを行ない、本人の安全に配慮している。		利用者一人一人の所在確認は常に行なっている。階段の上下口や、玄関口にセンサーマットを置き、なお一層安全に配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーの配慮を第一に、利用者の日常生活の形態を把握し、さりげない見守りにて安全面に気を付けている。夜間は2～3時間毎に見廻りを実施し、安否確認を行なっている。		利用者のプライバシーに配慮し、出来る限りの状況把握を行ない、安全確保に努めている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状況により保管や声掛けを行ったり、間違えて使用しないように、大きな字で物の名前を明記したりしている。		今後も利用者の状況に応じた保管、管理を行ない危険防止に取り組んでいきたい。(カミソリや、誤飲の可能性があるシャンプーなど)
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット記録についてミーティングで取り上げ、事故を未然に防げるよう対応策を話し合い、経過も報告し事故防止に取り組んでいる。		入居者の状態変化があった場合、予測できる事故についても話し合い、予防策を考えている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生時に管理者や職員に連絡を取れるよう連絡網を作り、初期対応を行なっている。		全てのスタッフが急変や事故発生時に慌てずに対応できるように、心肺蘇生法などの講習を受けたり、訓練を充実していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、消防署に協力していただき避難訓練を実施し、避難の仕方や消火器の扱い方等の講習を受けている。		地域の方々の協力も得られるよう、運営推進会議で呼びかけていく。地震時の避難訓練も導入していきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	自由な暮らしをしていただけるよう、過剰な見守り(抑圧感等)を行なわないようにし、それに伴うリスクについて家族に説明を行ない、理解を得られるようにしている。		その都度家族と話し合いをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>顔色や食欲の状況、本人の動きなど普段の様子から見て変化があった場合は、必ずバイタルチェックを行ない状態を確認、記録し、必要であれば医療機関への受診を行なっている。</p>	<p>利用者の健康状態はきちんと把握し、些細な変化であっても見逃さず、スタッフ同士で情報を共有し、報告しあっている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬時はきちんと服用するまで見守りを行ない、薬が変更になった場合は全スタッフが把握するように報告している。また、処方箋は個人ファイルに入れいつでも確認できるようにしている。</p>	<p>飲み忘れや誤薬をしないように、スタッフ間で常に服薬確認を行なっている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>利用者の排便状況は必ず記録し、状態によってはかかりつけ医と連携し下剤の調整を行なっている。また、起床時に冷水を飲んでいただくなど、自然排便も行なえるように取り組んでいる。</p>	<p>個々の排便状態によって下剤を調節したり、白滝や食物にファイバーを入れたり工夫している。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>朝、夜の歯磨きの声掛けを行なっている。義歯の手入れが不十分な方はこちらで預り洗浄を行なっている。入居者、スタッフ共に口腔ケアの必要性を理解していただけるよう、保健所等の歯磨き講習を受けている。</p>	<p>歯科検診は年1回行なっている。毎食後の歯磨きの習慣を一人一人に働きかけていきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の摂取量、水分量は毎回記録を取っている。水分摂取の少ない方には好みを聞き、その都度好みに応じた飲み物を提供している。</p>	<p>食が進まない方には形態を変えたり(刻んだり、おにぎりにしたり)、食器を馴染みの物(茶碗やおわん)にしたり工夫している。食事摂取量が少ないときは栄養価のあるお菓子など食べてもらい、栄養バランスが取れるようにしている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>毎年インフルエンザの予防接種を行なっている。また、感染予防としてペーパータオルの使用、細かな消毒に心掛けている。</p>	<p>利用者にはうがい、手洗いの声掛けを行なっている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理道具(まな板、包丁、ボール等)は衛生を保つため毎日漂白を行ない、チェック表に記入している。また、随時冷蔵庫の点検や清掃を行ない、食品の鮮度を確認している。		今後も衛生管理を怠らないよう、スタッフの食中毒に対する意識も深めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関周りには花を飾り、気軽に入れるような明るい雰囲気のある玄関にしている。		庭先のテラスにテーブルやベンチを置き、休憩やお茶のみのスペースを確保しているが、近所の方たちとの交流の場として利用していきたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居間には季節の花を飾り、家具の配置等も利用者が安全に暮らせるよう配慮し、生活の匂いや音が感じられるように工夫している。		生活感や季節感のあるものを取り入れ、暮らしの場を大切にしている。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	廊下や階段の踊り場にソファや椅子を置き、一人でゆっくり過ごしたり、利用者同士でお話できるスペースを提供している。		今後も利用者がゆっくり、気軽にできるスペースを大切にしていきたい。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居するにあたり、今まで使用してきた身の回りの物を持ってきていただくように家族に協力をいただいている。		食器や寝具類、タンスなど持参していただき、利用者とその人らしい生活を安心して継続できるように配慮している。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	外気温との差が大きくなるように、その日の気温によりフローアールや個室等の換気を行ない、悪臭がないよう、消臭剤や芳香剤を設置している。		利用の状態に合わせ、室内の温度を調整するようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		<p>利用者の状態に合わせ、今後必要であれば、部屋等にも手すりを設置するなど、環境を整えていきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		<p>コミュニケーションにより信頼関係を保つように努力し、状況に応じてご家族にも協力をお願いしている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>利用者全員が外の空気や景色を楽しめるようなスペースを作って提供している。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 全スタッフが「楽しく、ゆっくり、一緒に」をモットーに入居者と向き合い、入居者それぞれの思いに応えていけるよう、医療とうまく付き合いながら日々ケアに取り組んでいる。